

イチゴ生産者の栽培技術向上による

共同・市場出荷体制の整備

対象者 共同・市場出荷志向イチゴ栽培者

【普及活動のねらい】

これまで甲賀地域のイチゴ農家の販売は主に庭先や直売所が中心でしたが、栽培農家の急増により、更なる販売先の確保が必要となっています。このため、JAが主体となり令和4年3月から3戸の農家で共同出荷が開始されました。

共同出荷では、JA アンテナショップや市場出荷による地元量販店向けの販路開拓を目指しており、価格形成のためには安定した量の継続的な出荷が必要となります。このため、生産者毎に出荷量の差があっても、複数名で出荷することにより出荷量を調整していますが、養液管理や病害虫の影響により出荷調整が困難になる時期がありました。そこで、安定して出荷できる体制を整えるため、共同販売出荷農家の栽培技術を高める支援を実施しました。

また、「みおしずく」が甲賀地域でも令和5年度より栽培が開始されていることから、初めての栽培にあたり、高品質安定生産のための栽培管理やブランド化の確立に向けてJAこうかと共に出荷体制の検討を支援しました。

【普及活動の内容】

いちご栽培管理の実践と技術向上

前作で課題のあった生産者や新たに共同販売に参画した3名の新規就農者を対象に、育苗から本ぼまでの栽培管理について、開花期以降の養液管理や秋冬時期の温湿度管理、栽培期間中に発生したうどんこ病や炭そ病、ハダニの防除について技術支援を実施しました。



共同販売説明会で今後の管理の説明

「みおしずく」の栽培支援

「みおしずく」栽培者を対象に、高品質・安定多収のための養液管理や温湿度管理などの栽培管理を支援するとともに、県統一の規格に沿った選別やパッケージの実践についてJAと共に出荷体制や出荷量の検討を行いました。

【普及活動の成果】

研修会や現地指導によって栽培管理を支援し、10名のうち7名が9月の定植までに必要苗数を確保することができ、8名が予定通り年内に収穫できる見通しとなりました。

「みおしずく」の栽培支援では、要素欠乏による生育の停滞はなく、目標苗数を確保することができました。また、栽培に興味のある生産者に働きかけを行い、令和6年度には生産者が5名増える見通しです。

◎対象者の意見

定植が遅れたものの、年内に収穫でき安心した。共同販売の出荷に向けて、良品を収穫できるよう引き続き栽培技術を向上させていきたい。(生産者 K氏)